

会 議 録

1 会議名

令和4年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】令和3年度の「くわどり湯ったり村」、「ゆったりの家」における市及び指定管理者の収支状況等について（公開）

【協議事項】「地域活性化の方向性」の検討について（公開）

3 開催日時

令和4年10月13日（木）午後6時30分から午後7時42分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、佐藤寿美子、佐藤峰生、平野コトミ、水嶋豊秋、横田正美（欠席者5名）
- ・施設経営管理室： 竹下室長、中田主事
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：水嶋委員に依頼

議題【報告事項】令和3年度の「くわどり湯ったり村」、「ゆったりの家」における

市及び指定管理者の収支状況等についてについて、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

- ・挨拶

【施設経営管理室：中田主事】

- ・資料No.1「令和3年度の「くわどり湯ったり村」、「ゆったりの家」における市及び指定管理者の収支状況等について」及び資料No.2「出資法人等経営状況報告書」に基づき説明

詳細については、市ホームページに掲載してある報告書や決算書類等をご覧いただきたい。

また、今月2日に地域の皆様による湯ったり村応援隊の活動が行われ、約40人もの地域の方々にご参加いただき、施設整備にご尽力を賜った。市からも総勢6名の職員が参加したが、地域の皆様の施設に対する熱い思いを認識するとともに、施設管理課としても、本当にありがたく思っている。

このほか、くわどり湯ったり村では、毎月、湯ったり村カレンダーを作成し、日帰りのイベントを実施するなど、様々な趣向を凝らし、皆様のお越しをお待ちしている。

【坪田会長】

今ほど、湯ったり村の草刈りの話があったが、その前日には、市民の森の下草刈りがあり、16団体の131名の参加があった。どこの地域にもシンボルのようなものはあるが、私たちにとっては、くわどり湯ったり村が1つのシンボルだと思っており、地域の活性化につなげていきたいと思っている。

説明に対し、質疑を求める。

【横田委員】

質問が2点ある。1点目は、非常に初歩的な質問なのだが、資料No.1に市と指定管理者の収支状況がある。同じ項目であるのに、市のほうは税込額で、指定管理者のほうは税抜額で示されているが、何か意味があるのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

市の決算は、税込みですべて収入支出を表している。指定管理者のほうは、企業会計なので、税金自体を抜いた中で、損益計算書を作成している。そこを細かに出してしまうと、端数が若干ずれてくる部分もあるため、指定管理者及び市が公表している数字をそのまま記載させていただいている。

【横田委員】

資料No.2の3ページ目にある財務状況について、第24期である令和2年度の売り上げなどの額を見ると、底になったのではないかという雰囲気がある。新型コロナで最も大変だった年度だと思う。大雑把な見込みでよいのだが、当年度について、昨年度と同様なのか、それよりも売り上げや利益が上がりそうなのかを教えてください。

【施設経営管理室：竹下室長】

現状では、税抜額での売り上げは昨年度よりも上回る見込みである。

ただ一方で、営業外収益や、資料に計上されている国県市の補助金、雇用調整助成金の先行きがなかなか不透明な部分があるため、結果として純利益とすると、なかなか動向が掴めない状況である。

【横田委員】

もう1つお聞きしたい。第三セクター等評価委員会の評価で、冬期間について工夫が必要だとのことだが、この冬については、営業する予定はあるか。

【施設経営管理室：竹下室長】

なるべく営業したいと考えてはいるが、新型コロナの状況に応じて、営業面からも、コロナの影響からも、どうしても休業したほうがよいということもあるため、ぎりぎりまでしっかり検討したい。現時点では結論を申し上げられない状況である。

10月11日から全国旅行支援キャンペーンも始まり、そういった影響もあり、これから売り上げが伸びてくる要素が多分にあるので、その辺の動向を見させていただいた中で、判断したいと思っている。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村の一つの見どころといえば、やはり、この雪国のよさである。たしかに雪深くて、いろいろと交通の便は大変かもしれないが、利用している方が素晴らしい景色だとおっしゃっているので、その辺も加味しながら、検討していただければありがたい。

【金森副会長】

これまでに、この区域以外の例えば、直江津や高田近辺などから来られた方の人数を調査されたことはあるか。

【施設経営管理室：竹下室長】

毎年、傾向的なものは、指定管理者にも確認し、例えば、区域外、市内、市外、県外

ぐらいの種別で、一定の割合を教えてください。宿泊者は生の数字が出るので、その辺は明確な数字を押さえている。

くわどり湯ったり村の宿泊客の構成からすると、リピーターの方が多い状況である。1回訪れていただいて、気に入られて、何回も来ていただいている。リピーターの確保自体は、会社としても非常に努力されているかと思うが、それだけでは、やはり将来的には客足が減少傾向になってしまう。いかに新規のお客を連れてくるのか、どういったサービスを提供すれば来ていただけるのか、そういったところが大きな課題になってくるかと思うので、その辺を経営のコンサルタントなど経営を多角的に見ていただけるような方々とも協議をし、どういった商品構成をすれば、いかに幅広く来ていただけるのか、検討を前向きに進めていきたいと考えている。

【金森副会長】

リピーターが増えている傾向が見られるとのことで、安心した。ただ、気になっていることがある。毎月、利用カレンダーが折り込みで入ってくる。私が見落としているのかもしれないが、ホームページには載っている日帰り入浴の開館時間がカレンダーには載っていない。

その範囲までチラシに載せているのかを私も把握していないのだが、後で確認いただきたい。何時から何時まで入浴できるかという案内が、初めて見る方に伝わっていないのではないかと心配している。

【施設経営管理室：竹下室長】

早速、指定管理者と協議し、利用者にわかりやすいような情報提供をしていきたい。

【佐藤寿美子委員】

私は湯ったり村に手伝いに行ったりしているのだが、従業員の方と話していると、かみえちご山里ファン倶楽部との連携が取れていないのではないかと思う。

今月1日の市民の森の草刈りの際に、130人ほど参加されたのだが、湯ったり村に寄られた方は、ほぼいなかった。従業員の方も、おそらく来られるだろうと思い、用意をしていたが、誰も来なかったという話を聞いた。

来たらよいことがあるというような何かがあれば、寄って行かれる人もたくさんいるのではないかと思う。昨年、雪が多く降った時に駐車場が雪で埋まっていたので、もったいないから迷路を作るなど、何かしてみたらどうかと言ってみたら、誰が管理をするのかと言われ、これは難しいなと思った。そういうイベントがあれば、来る人たちの楽

しみができると思うので、そういうことも検討していただきたい。

【施設経営管理室：竹下室長】

かみえちご山里ファン倶楽部との連携について、そういう課題も出ているのだが、なかなか進んでいないということも承知している。やはり市が間に入ることによって、しっかりとした連携もできるかと思うので、くわどり市民の森を所管している農林水産整備課などと連携しながら、連携が図れるように進めてまいりたいと思う。

【佐藤峰生委員】

先日、開催されたえちご・くびき野100kmマラソンなど、上越市内でも多くのイベントがあると思う。イベントの際に湯ったり村のPRも含め、参加した方が湯ったり村を利用するという企画を考えたらよいのではないかと。

【施設経営管理室：竹下室長】

市としても、謙信公祭を始め、えちご・くびき野100kmマラソンなど大きなイベントの際には、参加者に市内の宿泊施設も合わせて情報提供しているので、その中でまた、くわどり湯ったり村をPRできるように努めてまいりたい。

【坪田会長】

いろいろな方法を検討する中で、利用者が1人でも2人でも増えるような策を今後、考えていくべきではないかと思っている。

他に質問を求めるがなし。

担当課から何かあるか。

【施設経営管理室：竹下室長】

私の考え方の説明になるが、施設経営管理室では他の施設も管理しているが、本来、管理のあり方の望ましい姿として「道の駅」がある。道の駅は、国土交通省が積極的な支援をする中で、全国各地に施設が配置されている。道の駅の考え方は情報発信と休憩場所、その他にしっかりと明確にされているのが地域を元気にするための施設であるところである。地域を元気にするというのは、単なる利用者としての施設ではなく、例えば経済的な循環、地産地消、雇用などがしっかり回るような地域になくはない施設にすることであり、それが道の駅の本質だということである。

それが顕著に現れているのが道の駅で、物産、物販、農産物といった地域のものを集めて販売している。それ自体が賑わいを生み、生産者にとってもお金が落ちるような仕組み、施設自体があるのではなく、施設があることによって地域の人たちにも潤いが生

まれてくる。

やはり、長い目で見ていくと、より積極的に、くわどり湯ったり村に行けば地域のこういったものも食べられるなど、そういうところまで、今後は深く考えていく必要があると思っている。皆さんに、その利用者として地域に施設がなくてはならないではなく、その施設がなくなると地域が回っていかないといった側面にしていくことが非常に重要と思っている。そういった協議をさせていただく機会も設けさせていただいて、地域の皆様や地域協議会の皆様ともいろいろご相談させていただきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【坪田会長】

以上で【報告事項】令和3年度の「くわどり湯ったり村」、「ゆったりの家」における市及び指定管理者の収支状況等について、終了とする。

— 施設経営管理室 退室 —

次に【協議事項】「地域活性化の方向性」の検討について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・資料No.3 谷浜・桑取区「地域活性化の方向性」の検討について、1「地域活性化の方向性」の構成要素（案）に基づき説明

本日はまず、構成要素（案）について、ご意見を伺いたい。

【坪田会長】

これだけあれば、すばらしいものになるだろうという考えは、皆さん同じく持っていると思うが、これを引っ張っていく何か組織体があれば、この地域の方々の人間性から見ると、ついていってくれる方はおられると思う。かみえちご山里ファン倶楽部もそうだが、立派なものがあるので、地域協議会とタイアップしながら、まず母体を作り、引っ張っていくような方法をとればと考えている。

そして、資料に神社の御朱印について載っていたが、今日、長浜でお祭りがあり、7名の神主の方が来られて神楽を披露されたのだが、その時に御朱印の話が出た。要望があれば、どこでも御朱印は作れるとのことだった。この地域には複数の神社があるので、作成すれば、御朱印巡りで1日過ごせるようになると思った。

また、この地域には四季折々の景色を楽しむことが魅力だと思っている。

事務局の説明に対し、意見を求める。

【横田委員】

資料の①自然・歴史・文化を後世に継承するための取組の推進に係るところで、最近
は新型コロナの影響で中止になっているが、横畑の「馬」がある。私も昔、中学生の時
に参加したことがあるのだが、一旦中断していたが復活し、かみえちご山里ファン倶楽
部が主催し、地元の横畑の町内会長とゆったりの家で開催している。そこで、潮陵中学
校の生徒から、授業の一環として全員参加していただいている。もう、自分たちは高齢
になってきて、跳べなくなってきたのだが、かみえちご山里ファン倶楽部が横畑で
こういう文化があったということをも昔のビデオと合わせて説明し、一般の方150名か
ら200名ぐらいがゆったりの家に集まって餅をついたり、繭玉づくりをしているので、
そういうものを続けていきたいと思う。それから、かみえちご山里ファン倶楽部が来る
前に、昔、明日の桑取を考える会という組織があった。もう20年以上前になるが、当
時のゆったり家の前の持ち主の方が、そこで馬の実演を行い、そのあと湯ったり村へ行
き、そのステージでまた跳んでいた。湯ったり村とタイアップして宣伝し、お客さんが
それ目当てに集まってきたので、そこで交流したりしていた。馬に限らず、西横山
も含めていろいろな小正月行事をバスで回ったり、体験できる日帰りツアーや宿泊パッ
クを湯ったり村で企画しては面白いのではないかと。桑取地域では子どもも少なくなっ
てきているが、例えば、潮陵中学校の生徒には横畑の御堂から湯ったり村の間だけでも、
昔ながらに太鼓をたたきながら歩いて体験してもらい、それを湯ったり村のお客に見て
いただくなど、普段の日常とは少し違う世界を体験してもらおう企画が考えられるのでは
ないかと思った。

【坪田会長】

どのように進めていけばよいのか、間口が広すぎてあれもこれもとなっているので、
全て欲張りしたいような気もするが、絞ったほうがよいのか。横田委員が言われた鳥追
の関係も絵本作家の方がよく来られ、本を出版されていた。また、写真家の濱谷さんも
小正月行事を撮られていた。そういった著名な方も来られている。一つのきっかけとし
て有名な方が来ると広がる部分はあるのかなと思ったりもする。

【佐藤峰生委員】

横田委員からもお話があったが、具体的に企画をすれば実施できるという内容のもの
があると思う。先ほどの報告で湯ったり村の冬の企画について検討するという話があっ
たが、小正月行事があるのは冬である。1年間の暦の中に、この項目を当てはめてみて、
1月は何、2月は何、3月は何ができるかと、もちろん全部を実施するとかではなくて、

まず当てはめてみて、1月はこれとこの企画を今年は売りにしようと、そういう形にすれば、見やすく、そしてわかりやすく絞り込みしやすくなるのではないかと。

それと、実際にどこの団体が企画し運営するのかということだが、この谷浜・桑取地区の他の地区にはない一番の強みはNPOのかみえちご山里ファン倶楽部があるということだと思う。実際に、既に地元に関するこの企画、運営をしていただいている。かみえちご山里ファン倶楽部を核にするのか従にするのかはわからないが、他のいろいろな組織との検討委員会のような形の中で、具体的にしたもののかみえちご山里ファン倶楽部に企画を依頼し、運営には地元の方たちが協力するなど、推進するための具体的なプログラムをとれば、この内容はかなり現実性があると思っている。

【坪田会長】

資料の内容は、お知らせしていないので、かみえちご山里ファン倶楽部に伝わっていない。だから、かみえちご山里ファン倶楽部とコンタクトをとりながら、話を進める方法も必要かと思う。やはり、かみえちご山里ファン倶楽部は地域に関わる活動や、情報発信など様々なノウハウを持っているので、その辺をお聞きしながら、地域の人から参加していただいて、何か組織づくりする必要があるという意見もあったため、今後、そういう方向性を私たちが考えていかなきゃいけないと思っている。

それから、市長が、通年観光云々と盛んに取り出されているが、自然・歴史・文化を活かした企画に鮭の薫製づくりが当てはまると思う。あれは酒のつまみとしては、絶品である。名立区もだが、ここは鮭が川を上ってくるので、一つの特産品として考えられるのではないかと。

また、義の塩についても、毎年、謙信公祭が開催されているので、それと絡めたりすることで、これまで谷浜地区で培われた技能を活用する方法は多くあると思う。これも一つの特産品として取り上げられるのではないかと。

【金森副会長】

資料に6つの構成要素（案）があるが、1から3まで「自然・歴史・文化」云々とあるが、どの活動を行うにも、この3つが揃わないと前に進めないのではないかとと思うので、これを3つ並べる必要があるのかなと思う。より具体的にすることも、今出されているものをふるいにかける必要があるのではないかと。例えば、先ほど佐藤峰生委員が言われた、すぐに実行できるという中身のものを資金の関係を含めて、緊急性、実現性を考慮し、優先順位を付けたほうが進め方としてよいのではないかと。このままでは、あまり

に項目が多すぎて、話がまとまらないのではないかと思った。先ほど、話に出ていたかみえちご山里ファン倶楽部と繋がっている部分があると思う。その辺も地域協議会だけで交渉することは難しく、関係団体との調整も必要である。時期的に難しいかもしれないが、進め方を考え直したほうがよいのではないか。

【坪田会長】

出されているもの全てが必要だと思うが、全部実施することも難しい。今後のスケジュールの案に、10月から11月までは、協議内容を基に地域住民や団体との意見交換とあるが、地域住民でなくNPO法人との意見交換という方法もあると思う。

今後のスケジュール（案）について事務局に説明を求める。

【千田主任】

- ・資料No.3 谷浜・桑取区「地域活性化の方向性」の検討について、2 今後のスケジュール（案）に基づき説明

案のとおり、1月までに地域活性化の方向性を完成させないといけないわけではない。

また、項目の絞り込みについても、事務局としては、今出ている項目は全て活かし、地域活性化の方向性が完成してから優先順位を考えていけばよいかと思っていたが、今の段階で優先順位をつけたほうが協議を進めやすいのであれば、そのようにしていただいて構わない。

資料にある地域団体の意見交換についてだが、かみえちご山里ファン倶楽部と行いたいという意見もあったので、そのような会を開催することもできる。他に地域住民の意見を聞く方法として、本日、参考配布した北諏訪区地域協議会だよりのように、地域協議会だよりでアンケートを取る方法もある。どちらか1つでなく両方行うこともできる。

【坪田会長】

事務局の説明に対し意見を求める。

【水嶋委員】

地域協議会でいろいろな意見が出ているが、地域の人たちがどのように考えているか全くわからないので、北諏訪区だよりのように住民の皆さんに意見を聞き、本当のニーズに合ったものを考えていったほうがよいのではないか。いくらこの場で話し合ったり、NPO法人と意見交換をしたりしても、住民の方の意見と合わなければ何にもならない。

【坪田会長】

住民がどういうふうを考えているかも必要な視点だと思う。他に意見を求める。

【横田委員】

住民の皆さんにアンケートを取るの難しいと思うので、地域には、いろいろな組織があるが、最低限、各団体の会長に集まっていた中で、地域協議会でこういうことを検討しており、今後、どういうふうにしたらよいかということも含めて揉んでみてはどうか。ある程度、団体の上の役職にいる人であれば、全体の意見が反映されると思う。それなので、町内会長あるいは、任意の団体の上の方に集まっていたき、地域の活性化に向けて、こういう意見が出ていて今後のことも含めて取り組んでいるのだということを通り合わせたほうがよいと思っている。

【佐藤峰生委員】

NPO法人との会合や各種団体との会合について、手順としては、関係団体の人たちが一堂に会して実施するか、ステップを踏むかを定めるということによいか。

それから、住民の声を聴く方法だが、北諏訪区のようにアンケートを取る方法もあるが、手間もかかるうえ、吸い上げが難しいと思うので、各町内の町内会長に依頼し、町内の意見をまとめてもらい、それを持ち寄るという形にしてはどうか。何も題材がないと、意見も出にくいと思うので、地域協議会では、こういう内容で検討していると資料を配布し、たたき台にしてもらえればよいと思う。資料の内容についての賛成、反対でもよいので、意見を出していただき、それを持ち寄り、次にどうするかを検討してもよいし、内容の絞り込みをしてもよいと思う。

【坪田会長】

確かに、意見交換の場で資料を出して意見を求めるのではなく、事前に資料を出して、それを絞り込み、意見を求める方法もある。

【横田委員】

各町内に聞くとしても、このままではあまりに幅広いので、もう少しグループをまとめて整理したり、削ってもよいので要点を絞ったほうがよいと思う。

【佐藤峰生委員】

私はもっと広げて、この他に意見はあるかを聞いたほうがよいと思う。そうすれば、地域全体の意見になるので、そこから絞り込んでいけばよいのではないかと。

【横田委員】

この資料のままでは、同じような内容があったりするので、体系立てるなど整理した

ほうがよい。ここにはないものを探すだけでも大変なので、町内に提示する資料はもう少し工夫したほうがよいと思う。

【水嶋委員】

それならば、資料を付けず、たよりで住民にこの地域の特性や個性、次世代に残していきたいものをまず聞いたほうがよいのではないか。

【横田委員】

意見を考える上で具体的なものがあつたほうがよいと思う。

【坪田会長】

この資料は地域協議会委員の意見であつて、この他に住民の人が考えていることを聞く必要があるという意見だと捉えた。

【金森副会長】

もし私が自町内の意見をまとめるとしたら、どうするかを考えたが、この資料を全戸に配布し、自分が行ってほしいものにマルを付けるよう依頼する方法をとると思う。必要か不要か、横のつながりについてなどを聞いたら、意見がまとまらないと思う。

【佐藤寿美子委員】

北諏訪区のたよりとこの資料を合わせたもので、住民の意見を聞けばよいのではないか。例として、地域協議会で出された意見を示し、意見を求めてはどうか。ただ、資料だけ見ても何をしてもらいたいのか理解できないかもしれない。

【横田委員】

説明がないとわからないと思う。私の町内のように、10人もいないようなところでは、集まってお酒を飲む際に、こんなことをしているのだが、どう考えるかを聞いたほうが意見が出るかもしれない。自町内に関する意見が中心になるかと思うが、それでもよいと思う。

【坪田会長】

次回以降、欠席委員の意見を聞きながら、進め方を考えていくのでは遅いか。

【中村センター長】

事務局としては、地域活性化の方向性の作成を28区の地域協議会に検討をお願いしている。資料のとおり、12月から1月で決定という一つのスケジュール案を作ったが、いつまでに決めなくてはならないという期限はない。地域について話し合っていくことが地域協議会の役割だと思っているので、会長の言われた通り、人数が揃ってから、い

ろいろと意見を聞きながら進める方法を取られてもよいと思う。

【坪田会長】

それでは、そのように進めたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

次に「その他」について、事務局に説明を求める。

【千田主任】

次回地域協議会：11月22日(火)午後6時30分～

【坪田会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。